

おぼろげな平塚らいてうの会ニュース

発行
平塚らいてうの会
〒112-0002
東京都文京区
小石川
5-10-20-5F
TEL・FAX
03-3818-8626

5月の総会で語り合いたい 「らいてうのニュース」

平塚らいてうの会会長 米田 佐代子

「女性が立ち上がらなければ」



ライトリンク撮影

昨年は、記念イベントを成功させ、らいてうが

テレビドラマに登場したこともあって、会の活動への関心も大きく広がりました。これをうけて、今年しなくてはならない

ことが山のようにあります。

アメリカのトランプ大統領当選を受けて世界がその危険な動きを批判する中でいち早く「尻尾を振った」安倍政権は、自衛隊の南スーダン派遣や沖縄の新軍事基地建設強行、戦時中を思い起こさせる「共謀罪」、24条をふくむ憲法改悪等々をめぐっています。らいてうが生きていたら「人に言われてからではなく、女性が自分で立ち上がらなければ」と言ったにちがいありません。昨年の合言葉は、「自分の言葉で平和を語る」「他者との対話と連帯」でした。5月21日の総会で「今年何をするか」語り合います。では今年の課題は？

①「新しいらいてう像」をかたちに

課題の第一は、昨年の記念事業計画の「積み残した」分を実行することです。「紀要10号（昨年の2つのシンポジウムの報告を含む）の刊行」

「新発見の資料も使った新しいらいてう紹介ブックレット（執筆米田佐代子ほか）の作成」「らいてうの家紹介DVDの作成」「らいてう資料の保存と一部アーカイブ化」などを実現しましょう。

②「自然破壊の太陽光発電」ではなく

「自然とともに」生きる途を

第二は、昨年から問題になった「あずまや高原太陽光発電問題」の取り組みです。全国からの声を集め（本号参照）、地域のみなさんと事業者への要請や上田市・長野県などに要請を行い、「本年4月着工」予定をストップさせました。現在上田市は「国立公園内に太陽光発電設備設置を推奨しない」という「ガイドライン」を策定、また3月には参議院の環境委員会で「真田町の太陽光発電」を含む長野県内の事業が、自然破壊だと反対運動が起きている事例として取り上げられ、環境大臣が「自治体による規制」に理解を示しました。この計画を断念させ、この地の自然をまるごと守ることこそ、らいてうの精神を生かす途です。

③ひろく「学習」と「研究」活動を

第三は、学習・研究活動の推進です。「らいて

うさんつてどんな人？」という声に応える学習講座や、「戦前を繰り返させないための歴史講座」など他団体とも共同できる学習活動をすすめます。昨年の「平塚らいてう賞」受賞に応える研究活動、これまでの活動記録―特に写真やパワーポイントなどの保存と整理、これまでのテーマ別展示パネルの活用方法も検討しましょう。

④活動を支える体制を

第四は、これらの活動を支える体制の確立です。会事務局は、新しい体制をつくることになり、副会長も補強されます。「家」のオープン体制も協力のお申し出がある一方、現状維持はたいへんで検討課題、財政確立も必要です。運営は困難ですが、今年のキーワードは沖繩辺野古の運動に学び「あきらめない」です。がんばりましょう。

第18回通常総会のご案内

日時 2017年5月21日（日） 13時30分開会
会場 東京ウイメンズプラザ第一会議室
議題 ①16年度事業報告と決算報告
②17年度事業計画（案）と予算（案）
③新役員選出 ④その他

らいてうの家オープン

4月29日（土） 10時45分から
男性コーラス 我謝（がしゃ）・春の茶席

らいてう忌 6月4日（日）

茅ヶ崎のらいてう碑、南湖院を訪ねる日帰りバスツアーです。昼食は小津安二郎が定宿とした茅ヶ崎館です。詳しくは、らいてう事務局へ

あずまや高原

「太陽光発電」計画の白紙撤回を

全国の会員の皆様から寄せられた「私の一言」を紹介いたします。

高良 留美子（東京都目黒区）二万一千平米というと、私の世代感覚でいうと六千三〇〇坪ではありませんか。電力のためにそれだけの山林と草地を破壊する。そしてソーラーパネルはやがて廃棄物となつてさらに自然を破壊する。これは私たちが求め、らいてうも求めたはずの生の循環ではなく、死の循環、再生しない循環です。

草木の生えない砂漠などでは、それもやむを得ないでしょう。家々の屋根、ビルの屋上などでも……。しかし日々二酸化炭素の代わりに酸素を生み出してくれる山林を破壊するのは、一種の自己破壊です。



昨年8月現地に建てられた告知看板。「2017年4月着工」とあるが反対の声で大幅に延期されることになった。

日本は周囲をすべて海に囲まれています。名だたる火山国で、あちこちから地熱が噴き出しています。雨が多く、水流に恵まれています。地域によつては風もよく吹きます。海流、地熱、水力、風力による発電を増やしていけば、

電力はまかなえるはずですが、そのためにできる限り恒久的な設備を作つて。

たとえ電力のためであっても、山林を破壊するソーラーパネル建設計画に反対します。

羽田 澄子（東京都練馬区）電力の必要から計画された「太陽光発電」と思いますが、この計画が実現されると、この土地が持つていた価値が失われることが明らかですね。自然が持つていた価値を破壊しては、取り戻すことができません。この計画は撤回すべきだと思います。

奥村 直史（東京都小金井市）二十二歳、傷心のらいてうは松本で記しています。

「太初、茫漠の山野に住んだ原人は何らのごさかしき思念を夾むことなしに日輪、山岳、大洋、大河、森林などに対して我知らず跪いたのである、その自然崇拜時代の厳肅な、敬虔な人間本来の純粹相を、この虚偽な曖昧なまやかし多き今日の世にまだ多少でも失わずして生きていられた自分を、私は心に謝さないでどうしていられよう。」七十歳を過ぎ、信濃を訪れ、らいてうは次のように詠む。

ひとり居のひとり楽しき夏の草
自然に支えられて初めて存在する自己を実感し、それに感謝する思いをらいてうは終生持ち続けた。らいてうが敬虔な思いを寄せる信州の自然を守つてください。四阿高原には「太陽光発電」は、ふさわしくありません。建設計画の白紙撤回を求めます。

小田原 健（横浜市）らいてうの家造りに参加させて頂いた一人です。自然エネルギーは大変良いことと思つていますが、大切な高原の大自然の景観は元に戻せません。生態系もくずれます。大雨で土砂崩れで人々の生命の危険にも連動してしま

います。長野県には水力発電所が30数カ所ありますが、土砂で埋まり機能してません。国は原発を造りたくて土砂で埋めてしまいました。森林の手入れをしなかつたので自然に埋まったのですと言う。さらに太陽光発電のパネルは古くなつてからの処分は公害は原発並みの課題となりそうです。

中島 邦（東京都杉並区）平塚らいてうの家の環境にふさわしくない、太陽光発電のパネルの設置に反対します。

牧 幸男（松本市）CO₂削減の問題は十分認識しています。しかし、その対応は何処でも良いものではないです。特に太陽光については周囲の環境とマッチするべきです。今回の設置場所は自然豊かな場所で、光を反射する設置は周辺環境になじみません。私は薬草園の管理責任者として、小鳥が飛来する薬草園、薬草園周辺の自然環境が侵される今回の計画には反対です。

塩川 治子（長野県軽井沢町）「らいてうの家」が建つ前の原野の佇まいを思い出します。「自然と自由」を愛したらいてうさんの意志を尊重し賛同します。



宮島 満里子（上田市）季節を告げる鳥の声、木々を渡る風の音、そこにいる人々と語り、満たされるこの「らいてうの家」は、私たちにとって大切な場所であります。高原の冷氣、野の花々、野鳥の囀り、太陽にきらめく緑、この宝石のような周囲の景観が壊されることは悲しいことです。環境を変えてまで、自然エネルギーの推進の方が大切なのでしょうか。どうかこのままの閑静な環境をのこしてください。心よりお願いします。

小谷 宗司（長野県王滝村）長野県では有数の薬用植物園が隣接している。自然環境のハカイはあってはならない。

三室 聡子（島根県大田市）私が住む隣町の世界遺産「石見銀山」は今にいたっても開発の手が及んでいないことを大きな意義として認定されました。長い間に築かれた自然との調和を大切にすることこそが文明ではないでしょうか。自然のありようを変えてしまう「太陽光発電」計画には断固

反対します。

宮本 英子（京都市）

京都から何度も「らいてうの家」を訪れ、上信越高原国立公園の一角をなす自然豊かな環境にいつも癒やされていた私にとって「太陽光発電」の大切さも

分かりますが、なんといつても高原のただずまいを何よりも大切にしていただきたいと思えます。ぜひ今まで通りの自然のただずまいを残してください。今まで通りのさわやかな高原を大切にしてください。

貫名 初子（神戸市）世界の平和を守り、婦人の地位向上をめざし女性の活動を開いてきた人として、らいてうの家を大切にしてください。世界的視野で活動したらいてうの家を大切にしてください。後から育つ人々のために。

桑田 まなみ（上田市菅平高原）未来に負の遺産を残したくない。

三代 香世子（大分県豊後大野市）自然エネルギーとは言いながら自然の中にそぐわないパネルが野放図に並べられているのを見るにつけ、日本の政策のおそまつさを感じております。日本の風景を大切に、世界に認められた数々の誇れる宝物を私たちは守っていくべきだと考えて、この計画を撤回していただきたいと要請します。

谷口 元（千曲市）太陽光発電施設が建てられると聞き驚いています。私はこの薬草園に一年に3回ほど訪れますが自然豊かで整備されたこの場所が大好きです。この薬草園から太陽光発電施設が見えることになると悲しくなります。施設を作らないようお願いいたします。植物園が悲しみま

野田坂 真理子（岩手県二戸郡）福島原発事故後、再生可能エネルギーが脚光をあび特に大規模太陽光発電は取り組みやすいらしく岩手でもとびつく自治体があるようです。私は被災地だからこそ慎重でなければならぬと思います。原発も安心安全な未来のエネルギーと喧伝され導入されたと聞きます。未来のことは誰も分らないからこそ私達はとるべき道を時間をかけて考えてゆくべきだと思えます。

衣笠 洋子（京都市）日本百名山の登山路、そして1300年もの歴史を持つ山家神社への参道という歴史的に大切な土地を守っていくことが何より今の社会で大切なことではないでしょうか。手つかずの自然を守ってきた先人たちが、この自然を次世代に手渡していくことは今私たちが出来ることだと考えます。森の自然を残すよう厳正な審査をしてください。

広瀬 しず江（上田市真田町）どう考えても、らいてうの家の前に太陽光発電のパネルを設置することは、マイナスのみだと思えます。自然の恵みは、人間が目先だけを見て、奪ってよいものではないと思えます。山懐に抱かれるのが似つかわしい在り方だと考えます。

*別刷りに続きます。

らいてうさんと伊之助

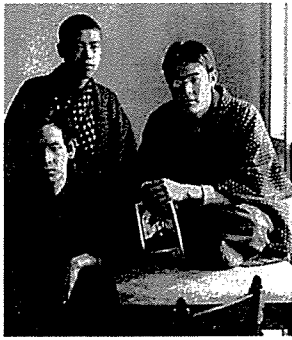
海部 公子

(裕伊之助美術館運営委員長) 師裕伊之助(1895-1977)が81年の生涯で記憶にとどめていたことのひとつが、らいてうさんのことだった。

二人が出会ったのは伊之助17歳、らいてう26歳。それは当時、東銀座にあった読売新聞社の三階で開会された第一回「フューザン会展」の会場である。明治45年(1912年)の10月だった。

会場に現れたらいてうさんと数名の一行は、エビ茶の袴に矢絨の振袖、束髪といった華やかないで立ちだった。坊主頭に筒袖の着物に袴姿の伊之助はこの若い女性たちに圧倒された。中でも、らいてうに目が釘付けになった。そこで伊之助が直接感したのは、らいてうさんその人のいのちが放つ説明し難い光だったかもしれない。

「フューザン会」は翌年の3月に同じ場所ですでに二回を開催して以後、解散となったことが長く惜しまれてきた。



右が木村荘八、左の前列が岸田劉生 後列が裕伊之助です。1913年

きが上がつてきたのは、その官僚的運営への反発にとどまらず、フランスでラファエル・コランに師事した黒田作品へのあき足らなさでもあった。そ

我が国、洋画

(油絵)の黎明期、明治40年発足の文展は黒田清輝が率いていた。それへの批判がふつふつ湧

こへ新帰朝の高村光太郎や斎藤与里をはじめ岸田劉生、小林徳三郎、萬鉄五郎など気鋭の画家たちに裕伊之助も加わって「フューザン会」が立ち上がった。これは日本で最初の在野の美術団体であり、裕伊之助は最年少ではあったが本格的な画家として第一歩をここに踏み出した。



1912年5月のらいてう

この前年の明治44年(1911)らいてうは、女性だけの文芸雑誌『青鞥』を

性だけの文芸雑誌『青鞥』を

刊していた。

「元始、女性は太陽であった」と声高らかに自主、自尊の考え

を、生きることの核にして世に問い続けたその一生は、現代にこそ生彩を放つもので、受け止めねばならない女性の生き方であろう。

そうしたらいてうとの出会いの記憶を伊之助はその生涯に一度ならず何度も語っていた。日本の洋画界を担っていくことになる青年画家伊之助と、『青鞥』発刊に燃える若きらいてう。のちに、生涯を通して油絵から色絵磁器に至る人間的な真の芸術を追求した伊之助と、平和と人間の命の輝きを求め続けたらいてうが1912年に交差した瞬間が存在し、記憶されたことは、大変貴重なことに思われる。時代を切り開こうと躍動する青年たちの響きあう姿を生き生きと伝えてくれ、現代につながる日本近代のイメージをも豊かなものにしてくれるのではないだろうか。

「事務局日誌」

- 1月16日 第6回理事会開催
- 1月19日 紀要10号編集委員会
- 1月27日 上田・真田役員会開催
- 2月3日 17年度「家」企画展示打合せ
- 2月17日 上田・真田ソーラーパネル問題学習会
- 講師 林 一六先生
- 「家」企画展示打合せ・作業
- 2月23日 第4回常任理事会
- 3月1日 「家」企画展示打合せ・作業
- 3月10日 あかつき印刷創立70周年祝賀会に出席
- 3月14日 第7回理事会開催
- *前号3面中「12月26日 市と県に要請行動」の予定は、年末の事情で延期になりました。

「らいてうの家」でのイベントへのお誘い

*らいてう講座I 5月28日(日) 13時30分

「日本での女性参政権運動」

講師・折井 美耶子(らいてうの会副会長)

*森のめぐみ講座I 6月18日(日) 19日(月)

春のらいてうの庭を観察し、昼食は山菜天ぷらを味わいます。午後は薬草園で森林セラピー(予定)とらいてうの森の観察です。

2日目は山菜採りを楽しみましょう。

訃報 上田らいてうの会の竹中正枝さんが、昨年

12月26日、88歳で逝去されました。「家」のお当番などで力を発揮されました。ご冥福をお祈り致します。

らいてうニュース2017年4月1日 別刷り
あずまや高原「太陽光発電」計画の白紙撤回を

小杉 香織(札幌市) りいてうの家は単体で素敵
なだけでなく、自然と調和しそれと一体になつて
いるところが最大のミリョクです。自然は一度破
壊したら元にもどりません。現状のまま保存され
ることを望みます。

内山 好子(長野市) 菓草関係の仕事をしていま
すが、菅平の菓草試験場は非常に頼りにしていま
す。この場所に隣接して太陽光発電施設が建設さ
れるかもしれないと聞いて驚いています。おそら
く菓草園の自然状態に影響があるのではと思われ
ます。菓草園が太陽を反射する施設で植物への影
響もあるかも知れないと思うような気がします。
また、この植物園の価値がなくなつてしまいます。
建設は御一考ください。

檜山 智子(小田原市) 信州の豊かな自然が一堂
利企業の利益の為に踏みじられるのは、許しが
たいことです。現地を見れば、菓草園や「らいて
うの家」をはじめとしてあの自然と共に息づく物
を大切にしたいと誰もが思うはず。土地を売却しよ
うとしている野沢ホスピタリティ社に強く再考を
求めると共に豊かな自然を有する上田市、長野県
の強い指導を希望します。

繁澤 佳代子(名古屋市) 自然を愛し、家族を愛
し、人間の幸福を願う行動してきた女性のシンボ

ル「らいてうの家」は輝ける女性の歴史であり、
日本の足跡です。その地の側に太陽光発電なども
つてのほか直ちに白紙撤回を求めます。

阿南 祐子(大分市) 脱原発の代替エネルギーと
して期待される太陽光発電ですが、実は問題が
多々あると聞いています。電力会社もこれ以上買
い取れなくなつていくこと。自然エネルギーとい
いながら有害なパネルの廃棄物を残すことになり、
自然を壊す代物だということ等々。景観的にも実
利面でもこれからのメガソーラーの建設が賢明な
ものではありません！将来的な展望の上にこの計
画の撤回を要請します。

藤田 美由紀(金沢市) 自然を守ることからの観
点でいうと「反対」というよりむしろ適さない。
この土地は「太陽光」設置に適しているのか。登
山道路や周辺の施設や建物への影響はどうか。以
上についてお返事していただきたいと思ひます。

小池 喜代(長野県岡谷市) 10年以上前から「ら
いてう読書会」を始め「元始女性は太陽であった」
「らいてう著作集」を読み合っています。「らいて
うの家」の維持会員にもなっています。らいて
うについてのお話をお聞きしたり著作集の中で信
念を持つて世の中に流されずに生きていたらい
てうさんの思いに感動しています。らいてうさんの
一番の願いは女性が女性として幸せに生きられる
ための平和を切望していることがわかります。そ
の願いのつまった「らいてうの家」はそうした願

いに共感する人々の大切な拠り所です。多くの皆
さんにらいてうの思いを知っていただくためにそ
の環境を人為的に破壊することは是非とも中止し
て欲しいと思います。

奥村 洋(東京都小金井市) 「らいてうの家」は山
の自然に囲まれていて意味があります。らいてう
の愛した信州の山々、野の花、山の花に出会いた
くて女達は、「らいてうの家」に集まるのです。私
も毎年、自然にひたり「らいてう」を想う時間を
求め「家」を訪れる一人です。自然に囲まれた「ら
いてうの家」の存続を願ひ「太陽光発電」計画の
白紙撤回を要求します。

関山 恵美子(諏草市) 営利事業を目的とした「太
陽光発電」計画はとりやめてください。私は数年
前に「らいてうの家」を訪ねた一人です。国立公
園であるあの美しい自然の中に営利目的にした
「太陽光発電」の設置はふさわしくありません。
計画の中止を強く訴えます。市、県、環境省は良
識ある措置を望みます。

纒沢 不二雄(上田市菅平高原) 今日の地球環境
は産業の行き過ぎから気候の温暖化、自然環境の
破壊と問題視される中で国の自然公園法の縄のあ
る地域場所に太陽光パネル設置とは本末転倒です。
即刻、国より計画を取り止めるよう指示をお願い
します。

吉田 まみよ(京都市) 昨年初めてらいてうの家に行つたときあずまや高原ホテルに2泊しました。送迎の車に乗せて頂き長い距離で本場にありがた



らいてうの家の前の道、柵の向こうが太陽光発電計画予定地

かつたです。

米田会長よりホテルの現在に至る経過を伺いました。

ホテルとして自然を生かした取り組み(星座観察など)への転換で経営が良くなっているようなお話で、

上信越国立公園第2種特別地域に建つホテルとして良かったな

と思われました。自然と共に息づくホテルをめざしておられたのになぜ、こんな大規模なソーラーパネル設置を計画されたのでしょうか?せっかくな大いにピカピカの板が並ぶなんて絶対考えられません。らいてうの家は目の前です。横には長野県の薬草園もあり別荘も並んでいます。景観台無しでホテルのお客さんもきつと悲しまれることと思います。らいてうの家がどんな思いで建設されたか御存知でしょうか。2007年には自然とマッチした建物として上田市の都市景観賞を受賞し、毎年草刈りをして近くの山林に植樹をし、全国から来館者の来る大切なおうちです。絶対にこんなム

チャクチャな計画は白紙撤回してください。

西村 善次(上田市常磐城) 人が住み、人が行き交う所にはそれぞれの歴史と文化が存在する。その人達の思いを無視するような計画は、なに人も強行できないことは論を俟たない。

金澤 光子(千曲市) 薬草園が大好きでよく遊びに来ます。静かな雰囲気そして緑溢れるこの場所に接して太陽光発電施設が作られると知り驚いています。金属の建物ができると自然は価値がなくなってしまう。本当に自然を愛しているのなら、太陽光発電をこの場所に作らないと思います。建設絶対反対です。

山田 規矩子(埼玉県新埴市) 太陽光発電のためのソーラーパネルがずらりと並んで設置されている風景は美しいものではありません。緑のない無機質な風景です。こんな風景が「らいてうの家」の真前に展開するなんて許されません。現在、大規模なソーラーパネルが設置されたために周囲に住む人達のひんしゆくをかつている例があちこちに出てきているようです。設置される前にこの計画をやめさせましょう。

北澤 有希子(目黒区) りいてうの家に通い始めて2年になります。年に2回ぐらいますが。上田が好きです。東京生まれの私にとって世田谷に住んでいたらいてうの生活ぶりを知り、それをより充実したものにしてほしいと思っています。上田が

田にも憧れを持つようになりました。一つ一つの生活をていねいに過ごすことが社会とのつながりとなること、それをいろいろな体験講座で教えてもらっています。そんな大切な場所である「らいてうの家」の前の自然をこわす太陽光発電計画には反対します。遊んでいる土地ではなく私たちが深く社会を考える大切な土地です。東京から通う意味がなくなるような計画はやめてください。

佐々木 都(佐久市) 「あとのまつり」という言葉があります。どうぞ「あとのまつり」になりませんようによく考えてください。まつりは祭、そしてまつりは政治(まつりごと)なんです。間違わないようによく考えてください。

河合 充子(東京都多摩市) 太陽光発電は自然エネルギーとして、評価できますが、発電版は「無機質感」があり「景観に及ぼす影響」は配慮すべきことです。加えて「雨水の流れ」や「発電版の反射による被害」等々のリスクがあり、周りの人家・家屋への被害が問題になっています。今回の「らいてうの家」のすぐ近くでの設置は右記のすべての面で多大な被害を与えます。配慮のない「自然エネルギー」は「自然」に反することになります。「らいてうの家」のすぐ近くへの設置は、白紙撤回してください。良識を持って判断してください。

*みなさまからお寄せいただいたご意見はまとめて環境省へ提出する予定です。